

syou
鉦



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療

患者の人権と意思を尊重します

診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います

地域包括ケア

地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成

地域医療に貢献できる医療人の育成を行います



7月5日早朝 撮影

ご挨拶と御礼

令和2年7月豪雨災害でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災されたみなさまに心からお見舞い申し上げます。

7月3日深夜から4日未明にかけて南九州を襲った線状降水帯による記録的な大雨のため球磨川が氾濫し人吉をはじめ沿岸の多くの自治体で甚大な被害が出ました。当院では、駐車場が膝まで、1階が足首の高さまで浸水し一時大型器機やエレベーター、エスカレーターなど使用できない状況となりましたが、いち早く災害対策本部を立ち上げ4、5日の2日間、救急を中心とした災害診療を行いながら復旧作業に徹しました。幸いにも1階の水も4日午後には除去でき電子カルテも稼働し大型器機も翌日には復旧し、月曜日からは平常診療も可能となりました。ただ市内の多くの医療機関が被災したため救急、周産期が当院に集中しただけでなく、これまで構築した医療連携も困難となり災害から3週間経過した現在でも平常には戻れていません。職員の人的被害はありませんでしたが、住居65棟、車74台が浸水し避難

所生活を送った職員もいて20数名が出勤できない状況でした。マンパワー不足に対し、熊本県、熊本大学、DMAT、各種団体から医師や看護師をはじめとする応援、また団体個人から温かい励ましのお言葉やお見舞いをいただきました。皆様のご厚情に対し深く感謝申し上げますとともに心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

3週間が過ぎ市の中心部は大分片付いてまいりましたが、市内全域の変わり果てた姿を見ると未だ心が痛みます。とは言いつまでも被災を引きずり立ち止まっているわけにはいきません。私たちは人吉市民が安心して復興復旧活動に取り組み、そして新しい未来を切り開いて行けるように粛々と良質な医療を提供し、地域とともに歩みを進めて行きたいと思えます。

どうかこれまでと変わらぬ皆様のご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年7月29日

独立行政法人地域医療機能推進機構 人吉医療センター 院長 木村 正美

周産期医療の状況

今回の水害で人吉市内の愛甲産婦人科、河野産婦人科が浸水し当院は人吉球磨唯一の産婦人科となりました。発災直後に熊本大学片淵教授の心強い全面支援の連絡、妊婦のスムーズな移送ができたのは、愛甲先生とスタッフの迅速な対応、また、心よく地元の妊婦さんを受け入れていただいた伊佐市中村産婦人科、小林市民病院吉永先生等幅広い産婦人科の連携・絆の強さを改めて実感しました。お陰で発災から1か月を乗り越えることができました。まずはお世話になりましたみなさまにお礼申し上げます。

今回、最初に困ったことが固定電話、一部の機種種の携帯が使えず患者さん・妊婦さんと連絡がとれなかったことです。そのためFacebook、Lineで周知したところすぐに多くの反応があり災害時のSNSの有効性を認識しました。また、KKTやRKKのインタビューも受け当院が診療可能であることを広く周知しました。

4日の夜には、早速飛び込み出産があり、その後これまで経験したことのない分娩ラッシュが始まり、コットや保育器が不足したため、愛甲産婦人科、公立多良木病院、アステムの協力を得てかき集めました。結局7月の分娩数は40例で前年同月比270%、緊急帝王切開9件で小児科、麻酔科には多大な御協力をいただきました。

7月6日(月曜日)から平常外来を始めましたが、通常1日3、4例の初診患者が最大25例、1日の外来患者は連日70例を超えました。最終的に7月の外来件数は1100件(前月比200%)となりました。もちろん熊本大学、宮崎大学、DMAT、愛甲医師(啓先生、碧先生)の協力、そして愛甲医院や熊本県助産師助産師協会から助産師さんの応援があったからこそ無事に乗り切れたと考えます。公私関係ない、職種や県境を越えた周産期医療の連携が災害時に最大限に発揮された好事例だと熱く感じた次第です。

8月3日から愛甲産婦人科、8月11日からは河野産婦人科が再開し少し落つきそうです。この1か月は自分にとっても生涯忘れられない経験となりました。みなさま今後よろしくお願います。

産婦人科 瀬戸 雄飛

災害対策本部の立ち上げと災害診療

令和2年7月4日に発生した熊本南部豪雨災害におきまして、当院では災害診療体制へ移行し対応いたしました。その本部における状況を報告します。

7月4日当日 5:15には人吉・球磨地方全域に避難指示が出されています。国交省からは8:23に『球磨川氾濫 警戒レベル5』の報告が入っておりますが、実際は九日町で6:40 球磨川はすでに氾濫が生じ、約1mの浸水となっていました。当院でも7:40には玄関先が、8:30には救急センターが浸水にみまわれ、防水板を設置し1階の物品を階上に移動しつつ、9:30に災害医療体制として2階に各エリアの展開を開始、10:00には4階事務室に対策本部を設置しました。

10:20に『浸水のため愛甲産婦人科が診療不能状態である』旨連絡が入り、切迫早産の患者さんと産後3日目の患者さんに当院へ転院していただきましたが、その後も人吉・球磨地域の被災状況が明らかになるにつれ、要救助者が多数におよぶとの情報があり、召集可能であった職員はまだ多くはありませんでしたが、14:42にエリア展開を開始しました。これと同時に退院可能な患者さんには退院いただき、空床確保を開始しております。

被災された方(特に浸水による低体温症)が多数 救急搬送される中、16:40に『球磨村千寿園にて 死者14名、54名トリアージ

中』との情報の元、本部としてはトリアージ赤・黄の患者さんを当院にて受け入れ、トリアージ緑の軽傷者は公立多良木病院をはじめ他施設へ搬送いただく方針とし、4日の時点では4名を受け入れました。

7月5日 深夜にも千寿園からさくらドームへ避難された入所者のトリアージは継続され、また福祉避難所も公立多良木病院も受け入れ困難な状況となった為、各避難所からの受け入れ要請(特に維持透析患者)に対応しつつ、千寿園の被災者13名を受け入れました。

本部としては、翌6日(月曜日)からの通常業務再開を目標とし、複数施設からDMATが入るとの情報もあり、各エリアの縮小を試みましたが、救急患者の搬送は前日を上回り、最終的に各エリアを撤収し、1階の救急室での通常対応を再開したのは18:00、災害対策本部としての活動を終了したのは22:00となりました。最終的には災害発生後の2日間で、軽傷40名、中等症16名、重症(死亡を含む)6名 計62名、救急車63台(7月358台)を受け入れました。

最後になりましたが、自らもしくはご家族が被災されたにもかかわらず、今回の災害診療に協力いただいた職員のかたも多数おられます。ご尽力いただいたすべての方に感謝申し上げます。

副院長 薬師寺 俊剛



災害本部



トリアージエリア



黄色エリア



7/4朝 防水板越しの搬送



正面玄関



駐車場



病院南側

●医療福祉連携室の状況

7月4日(土)の発災直後は、被災宅や施設からの搬送者受け入れや社会的入院となり得る方の転・退院調整、患者家族への連絡確認、搬送手段の手配などを行いました。

7月5日(日)は人吉市内の医療機関へ聞き取りを行い、医師会との協力にて開院状況などをリスト化しましたが、確認が取れたのは44ヶ所中21ヶ所のみでした。しかし、7月10日(金)までに画像検査不可やかかりつけ患者のみ対象など様々な制限があるものの、31の医療機関で外来診療可能という状況にまでなりました。

7月6日(月)からは、看護部と協力して、予定の入院日延期や転・退院日を早めるなど、増加が予想される救急搬送患者の為の病床確保にも努めました。一方、外来へ飛び込んでくる患者等への相談対応も行い、場合によっては医師や薬剤師との協力で避難所にいる20名分の処方を行うための調整もしました。

また、当初は人吉市内の入院病床を持つ医療機関10ヶ所中7ヶ所ほどが転院受け入れ不可の状況であった為、急性期の治療

を要しない入院患者については熊本市内への転院を進めました。ソーシャルワーカー協会やDMATの協力により、受け入れを申し出ていただいたくまもと成仁病院や桜十字病院グループ、谷田病院、西日本病院への転院もスムーズに行うことができました。ただ、その後も避難所等からの救急搬送が続いていた為、県内全域の病院・施設への転・退院を想定して、病床確保に向けた県や市町村との連絡調整も行いました。結果、7月における転・退院数は人吉球磨以外の病院・施設が45名、人吉球磨の病院・施設が87名、その他避難所等が56名となりました。

今回の水害が広域で程度が高度であったため他の機関との連絡手段、患者移送手段の確保が難しかっただけでなく、当該地域の限られた病床が減少し平時では「連携」でうまく回ったものが災害時では困難となり、地域を越えた広域な連携と協力で急性期病床の確保・運用が可能となりました。改めてご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

医療福祉連携室 南 秀明

BCP 平時の取り組みと実際

JCHO 人吉医療センター BCP マニュアルでの災害適応範囲は、広域自然災害震度6弱以上の地震や大規模人為災害等を掲げています。今回の深夜から降り続く豪雨、当地域初の大雨特別警報「警戒レベル5」、記録的短時間大雨、津波災害同様の大規模な水害は、人吉盆地内での想定にありませんでしたので、早急な対応が必要です。

災害対応基本方針は、①寸断なく医療提供を行うこと②人命を最大限優先すること③災害拠点病院として地域の医療提供の核となることです。

平時の取り組みでは災害対策・防火委員会が主となり地域の主要機関と共催し合同防災訓練の開催や防水板設置訓練の実績があります。今回はその浸水対策のための防水板が非常に有効でした。本館棟出入口5ヶ所に設置、泥水濁流を免れ医療提供を寸断することなく早期復旧に至ったと考えます。また院内は

近隣の住民の方の避難先としても利用していただくことが出来ました。一方で職員548名の安否確認に時間を要しました。幸い全員無事でしたが、固定電話やメール、一部携帯電話が不通になったことなどを含め今後の重要課題となりました。有事の際の通信ツールは多種必要で衛星電話とアマチュア無線機も活用しました。

さらに当地域ほぼ全体が被災しており地域の情報収集が困難だったため当院DMAT 隊員と共に市(健康福祉部)や保健所、新聞社を訪問しました。地域の現状や災害医療活動に欠かせない、顔の見える情報収集と連絡先確認が非常に有効でした。その後、DMAT 隊員は被災した地域の医療機関や避難所へ向き情報収集を行いました。このような活動は今後の災害対策へ繋げて行きたいと考えています。最後になりましたが多くの皆様からご支援ご協力をいただいております。感謝申し上げます。

総務企画課 西山 三智

災害時の救急室の状況

今回の水害を経験し、災害初動時の救急医療は想定外との戦いだと感じました。1番の想定外は、当院1階の浸水でした。過去の水害を鑑みても、球磨川を挟み人吉城側で河川の氾濫が起きるとは想定しておらず、1階が浸水した事で、訓練でもやった事がない2階での診療エリアの展開となりました。当然1階フロアとは構造が大幅に異なるため、導線を含めベッドや物品配置などをその場で判断せざるを得ない状況でした。それ以外にも、数えればキリがない程の想定外の課題と直面しました。災害初動時は時間的な問題もあり、その都度その場面で判断・解決していかなければなりません。Bestな対応が出来たとは言いきれませんが、災害対策本部を中心にスタッフ全員でbetterな対応は出来たと思っています。

救急センター 杉松 幸太郎



泥除去ボランティア



ソフトバンク中継車



駐車場 泥除去作業

人吉球磨地域における保健医療支援チームの活動

今回の豪雨災害に対して7月4日にDMATの派遣要請が行われ、翌7月5日、災害拠点病院である当院へDMATが14隊入り、人吉球磨医療圏保健医療調整本部が立ち上がりました。私が本部長にDMATロジスティックチームのリーダーに三村誠二先生(徳島県立中央病院)が就かれました。今回、人吉球磨に参集した支援チームはDMATをはじめ下記に示す15団体で、多い日は一日48隊が活動しました。

本部活動としてまず情報収集が行われ、人吉市の44の医療機関のうち26が浸水し、またインフラの被災で7月6日月曜日から診療可能な施設は15でした。発災直後は固定電話やインターネットが使えず、この地域の医療機関の被災情報を県や国はまだ把握できておりませんでした。DMATはこの地域のすべての医療機関や介護施設、医師会等を訪問して情報収集し、衛星電話を介してEMIS(広域災害救急医療情報システム)に代行入力が行われて被災状況が公になりました。

また、支援チームは救出現場や避難所に向き、情報収集、被災者のトリアージ、傷病者や透析患者など医療が必要な被災者の搬送を行いました。この地域の中核病院である当院と公立多良木病院が災害による傷病者を受け入れる役割を担いました。当院の救急診療や退院調整に関しては調整本部の計らいで当院にDMAT 11 隊、日赤救護班1隊を派遣していただき、その後は熊本大学の笠岡教授から医師3名を派遣していただきました。また、被災した医師会の医療機関訪問と診療再開のための支援も行われました。

7月9日に調整本部は当院から球磨地域振興局に場所を移動し、本部長は剣保健所長と医師会の山田先生、山村先生に交代しました。この時点で人吉市では8か所の指定避難所に約1200人、球磨村では5か所の避難所に約600人、その他の町村の指定避難所にも多くの方が避難されており、さらに自主避難所は詳細不明、孤立世帯300以上という状態でした。被災された人は慣れない避難所や被災した自宅で非日常な生活を続けるうち



に感染症、熱中症、深部静脈血栓症、ストレス関連循環器疾患、持病の悪化、不眠、うつ、廃用萎縮などの災害関連疾患を発生し、中には死亡される方も出てきます(災害関連死)。これらの疾患予防のため支援チームは避難所に向き、地元のスタッフとともに衛生環境改善、熱中症予防、肺炎や食中毒などの感染予防、深部静脈血栓症予防、体操などの運動、心のケア、慢性疾患の患者さんが定期の薬を受け取るためのシステム作り、そして今年は新型コロナ予防策などが行われました。孤立世帯に対しては自衛隊や消防とともに訪問し、医療や介護の必要な方を探し出すローラー作戦が行われました。また、被災者を支援する立場にある地元の自治体の職員、保健師、医療従事者などに大きな負荷がかかり疲労とともに心を病む人が出てきますので、このような支援者を見つけてケアや治療につなげる活動も行われました。

保健医療が次第に落ち着きを取り戻すとともに支援チームは漸減し、調整本部を務めていたDMATロジスティックチームは7月26日に撤収してその役目は日赤救護班に引き継がれ、7月31日に調整本部は解散しました。しかし復興までの道のりは長く、まだ多くの方が避難所生活を送られています。今後の活動は地元の保健所、自治体、医療機関に引き継がれていきます。

最後になりましたが三村先生をはじめ人吉球磨地域の被災者のために活動していただいた支援チームの皆様へ厚くお礼申し上げます。

副院長 DMAT医師 下川 恭弘

看護部の状況

今回の災害で20数名の看護職員が被災し勤務困難となりました。

その上、人吉市の多くの病院が被災し救急・産婦人科を一手にひき受ける状況となりマンパワー不足となりました。

そこで、看護師・助産師の応援要請を行いました。JCHOからは、諫早総合病院・宮崎江南病院・天草中央総合病院・九州病院・熊本総合病院・福岡ゆたか中央病院・久留米総合病院・佐賀中部病院・南海医療センター・湯布院病院、その他にも熊本市民病院・くまもと森都総合病院・西日本病院の応援を受けました。これにより毎日10名程度の看護師が病棟業務をおこない業務軽減ができました。特に熊本地震時、熊本市民病院の看護師を受け入れていた当院に対し7月7日には助産師・看護師の応援をいただき懐かしい顔に涙し絆を感じました。また、JCHO 宮崎江南病院と天草中央総合病院からは看護部長自ら駆

けつけていただき本当に心強く感じました。

特に周産期は災害前、月10名程度の出産が約4倍の出産となり被災した愛甲産婦人科から助産師3名と熊本助産師会から毎日2名程度の助産師に交代で応援してもらいました。救急は7月10日から17日までDMATに夜間業務を、7月17日からは熊本県看護協会の計らいにより済生会熊本病院と国立医療センターから2週間ずつ応援していただきました。

長期間の支援により被災した職員も徐々に復帰し平常を取り戻しつつあります。しかし、被災による精神的ストレスが原因で今も復帰できない看護職員も数名いることからこれからは、被災後のメンタルケアに力を入れていきたいと思っております。

この場を借りてご協力いただいた各施設に厚く御礼申し上げます。

看護部長 渡辺 朋子

令和2年7月豪雨で被災された方は病院等の窓口負担なしで受診できます

○災害救助法の適用市町村にお住まいで、**下記の対象保険者に加入**されており、次の①～⑤のいずれかに該当する方は、医療機関、介護サービス事業所等の窓口でその旨を**ご申告**いただくことで、**医療保険の窓口負担や介護保険の利用料について支払いが不要**となります。(令和2年10月末まで)

- ①住家の全半壊、全半焼、床上浸水又はこれに準ずる被災をされた方
※罹災証明書の提示は必要ありませんので、窓口で口頭で申告してください。
- ②主たる生計維持者が死亡し又は重篤な傷病を負われた方
- ③主たる生計維持者の行方が不明である方
- ④主たる生計維持者が業務を廃止、又は休止された方
- ⑤主たる生計維持者が失職し、現在収入がない方

対象保険者

国民健康保険・介護保険 (八代市、人吉市、水俣市、上天草市、天草市、芦北町、津奈木町、錦町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村、あさぎり町、荒尾市、玉名市、山鹿市、菊池市、玉東町、南関町、長洲町、和水町、南小国町、小国町)

**熊本県医師国保組合、熊本県歯科医師国保組合
熊本県後期高齢者医療広域連合、全国健康保険協会**

(上記以外の保険者(各健康保険組合等)についても免除される場合があります。詳細は各保険者にお問い合わせください。)

- ※窓口での申告内容は、後日、保険者から確認が行われることがあります。
- ※県外の医療機関等でも同じように受診できます。
- ※入院・入所時の食費・居住費などはお支払いいただく必要があります。
- ※**上記以外**の保険者の取り扱いは、各保険者にお問い合わせください。

○**保険証なしでも医療機関等を受診、介護サービスを利用**できます。

- この取扱いにご不明な点があれば、ご加入の各保険者にお問い合わせください。
通信不調などで保険者につながらない場合は、下記にお問い合わせください。
(国民健康保険) 県庁国保・高齢者医療課 096-333-2221
(介護保険) 県庁認知症対策・地域ケア推進課 096-333-2218

ご支援・お見舞いのお礼

今回の災害に際しまして、多くの皆様から心温まるご支援ご厚情を賜り、心から感謝申し上げます。熊本南部地域においては未だ災害の爪あとが残る状況ではございますが、皆様からのご支援を活力とし、当院も地域の病院として役割を果たします。今後ともご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

堤化学株式会社 様
医療法人昭芳会 林内科医院 林 芳郎 様
株式会社サンレイメディカル
アイティーアイ株式会社八代支店 寺島 寛 様
井本 純一 様
医療法人聖輪会 慈恵病院 迎田 玄洋 様
株式会社 光洋ショップ・プラス 様
正見株式会社 様
中村 透 様
株式会社日本リース八代営業所 柳迫 秀保 様
特定医療法人成仁会 くまもと成仁病院 様
雪印ビーンスターク株式会社 様
有限会社人吉防災 様
テルモ株式会社 山下 哲司 様
一般社団法人 熊本県臨床工学技士会 様
株式会社ニチオン 横手 貴士 様
橋本 さとみ 様
株式会社かとうユニホーム 加藤 晃久 様
アークレイマーケティング株式会社 藤本 康浩 様
株式会社フワール 様
コカ・コーラボトラー・ジャパン株式会社 様
今村 フユ子 様
株式会社肥後銀行 人吉支店 様
厚生労働省 災害時小児周産期 リエゾン 古川 様
株式会社日本エム・ディ・エム 東郷 利道 様
多治見 司 様
武田薬品工業株式会社 荒木 研二 様
株式会社内藤建築事務所 管 忠昭 様

NPO法人親子ネットワーク がじゅまるの家 野原 涼子 様
ハクソウメディカル株式会社 浜田 雅史 様
医療法人創起会 くまもと森都総合病院 様
渡辺 秀樹 様
宮城県人会さが 代表 富田 万里 様
東洋羽毛九州販売株式会社熊本営業所 永岩謙一 様
一般社団法人 熊本県助産師会 様
社会福祉法人 西浦福祉会 せん月保育園 様
井上スライス工業株式会社 様
池田塾 様
医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院 平田 好文 様
沖繩県立八重山病院 小浜診療所 石坂 真梨子 様
堀 伎美子 様、株式会社未来 大橋 様
社会福祉法人 人吉市社会福祉協議会 様
博多金の隈 ゴルフヒルズ 大久保 俊勝 様
熊本大学病院 循環器内科 教授 辻田 賢一 様
熊本大学病院 災害医療教育研究センター 教授 笠岡 俊志 様
JCHO 桜ヶ丘病院 内野 直樹 様
ナゼロ株式会社 近藤 一幸 様
鹿児島大学病院 口腔外科
別府 真広様、田中 昭彦様、松村 吉見様、山城 康太様
柿内 真作様、中村 麻弥様、内野 祥徳様
医療法人 朝戸医院 朝戸末男様、朝戸俊行様、職員一同様
医療法人芳徳会 京町共立病院 志戸本 宗徳 様
株式会社福岡建設 福岡 一郎 様
医療法人創起会 くまもと森都総合病院 様
熊本市立熊本市市民病院 様
医療法人財団 聖十字会西日本病院 様

独立行政法人地域医療機能推進機構 様
JCHO 九州地区事務所 様
JCHO 九州病院 様
JCHO 久留米総合病院 様
JCHO 福岡ゆたか中央病院 様
JCHO 佐賀中部病院 様
JCHO 伊万里松浦病院 様
JCHO 諫早総合病院 様
JCHO 熊本総合病院 様
JCHO 天草中央総合病院 様
JCHO 南海医療センター 様
JCHO 湯布院病院 様
JCHO 宮崎江南病院 様
熊本大学病院 消化器外科 様
熊本大学病院 災害医療教育研究センター 様
熊本大学病院 救急・総合診療部 様
熊本大学病院 小児科 様
熊本大学病院 産婦人科 様
熊本大学病院 消化器内科 様
熊本大学病院 画像診断・治療科 様
宮崎大学医学部附属病院 産科・婦人科 様
社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 様
国立病院機構熊本医療センター 様
熊本赤十字病院 様
公益社団法人 熊本県看護協会 様
熊本県看護連盟 様

(順不同)

災害で活躍した ICT ～くまもとメディカルネットワーク (以下 KMN) を利用して～

当院は昨年4月からKMNの参加登録を積極的に推進し、現在当院の登録者は10,000名を超え、人吉球磨内の利用施設登録は83施設あります。KMNは、病院・診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーション・介護施設事業所・地域包括支援センターをネットワークで結び、患者さんの診療に必要な情報(受診歴、病歴、検査結果、処方内容、検査情報など)を患者さんが希望した施設間で共有することで、より良い診療に役に立てるシステムです。今回、令和2年7月4日に発生した豪雨災害でこのシステムが活躍しました。

7/4災害発生から数日間、固定電話、FAX、インターネット、docomo以外の携帯が使えず(もちろん119も繋がらず)、個人の携帯で医療機関、医師会、行政、消防など知り合いを通じて繋がりを見つけ連絡を取り合っている状況でした。

そのような中、自宅が被災し薬やお薬手帳を流された、かかりつけ医が被災したなど、当院に多くの患者さんがいらっしゃいました。固定電話が使えないため医療機関に病歴・処方内容など問い合わせができない状態でした。7/7ようやく当院のインターネットが復旧し、KMNが使えるようになりました。データを提出している医療機関については処方情報等の確認ができ、「文章の送受信機能」で診療情報をやり取りし、当院のFAXが復旧してからも被災にて固定電話やFAXが使えない約20件の医療機関はポケットwifiを使い、FAXの代用として利用しました。また、被災しカルテやレセコンなどが水没した医療機関の中には、KMNで自院のデータを見ながら処方したなどの声も聞かれました。

今回災害を経験し、個人の備えもちろんですが、災害に備え地域全体でのKMN(ICT)活用の必要性・重要性を痛感しました。今後、住民の方にはKMN加入参加登録を呼びかけ、医療機関・調剤薬局・福祉機関・行政等は、利用施設を増やすと共にKMNを活用した連携を行っていききたいと思います。

医療福祉連携室 山田 一裕

面会制限レベル引き上げと検温システム導入のお知らせ

現在、全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大しています。したがって当院では、7月9日より面会レベル3(面会禁止)に引き上げさせていただきます。

また、1F正面玄関入り口と健診センターに、自動で検温できる「検温モニタロウ」を導入いたしました。来院される皆様には、こちらのシステムでマスク着用のまま体温を測っていただき、熱があればスタッフへお声かけ下さい。37.5度以上の方は来院をお控え下さい。

今後も3密(密接・密集・密閉)を避けた行動や正しいマスク着用の徹底、手指衛生を実践し、感染拡大予防に努めてまいります。

来院される皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

体温とマスク着用をAIが検知



ひとりひとりの
体温接触型測定では
時間がかかります

- **新型コロナウイルス、感染症対策**
カメラに顔を近づけると体温を自動測定。発熱リスクのある人を事前に検知
- **マスク着用も自動検知**
体温と合わせて、マスクの着用も自動で判別
- **スタンドアロン型**
サーバー不要で、カメラ端末1台から運用

看護師試験のお知らせ

8月30日(日)に開催を予定しております、2021年度JCHO一括採用試験(看護師・助産師・保健師)について、予定通り当院において開催を致します。

また、当院では下記職員を随時募集しております。

- ・(正規職員)療養介助員
- ・(任期付き職員)看護師
- ・(臨時職員)准看護師、医師事務作業補助員、療養介助員、技能員いずれの職種も新卒(2021年3月卒業・資格取得見込みの方)・既卒問いません。

詳しくは当院ホームページ(<http://hitoyoshi.jcho.go.jp>)、ハローワーク求人票をご覧ください。

問い合わせ先 Tel : 0966-22-2191(総務企画課)
メール : main@hitoyoshi.jcho.go.jp

新 任 紹 介



なかた こうすけ
中田 浩介 (協力型臨床研修医)

趣味：ドライブ
自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：医師として2年目でまだまだ未熟ですが、昨年学んだことを活かして、少しでも地域医療に貢献できればと思っています。よろしく申し上げます。



やまだ さゆり
山田 さゆり (歯科口腔外科センター・歯科衛生士)

趣味：ドライブ

自分の性格：明るい性格

自分のコマーシャル：患者さんが安心できるように、笑顔を忘れずに頑張りたいです。

